

学校図書館8つのステップ

東京学芸大学附属小金井小学校司書 中山美由紀

1 step よみがえり

: 倉庫からの脱皮 軍手とマスクで埃を払う 古い蔵書は棚から抜く (書庫・図書館準備室は必須)
日本十進分類法で分類の見直し ラベル・案内の整備 貸出を円滑に

2 step 発信アピール

: 1. 展示掲示・広報で発信 図書館で定期的に授業を (選択授業やある单元など) まずは資料を使わなくても
2. 読み聞かせ・ブックトーク・リタチャーク・ブッククラブ・ビブリアトル等・集会での発表・館内催し・館外催し
3. 図書館協力でレファレンス/役立つ資料を公立図書館・学校間でそろえる→自校図書館の自立
〔読書のたのしみ⇒学びとの関連⇒さらに深く・広く〕

3 step 選書の改革 (一括購入→分割購入→随時購入)

: 本を選ぶ (蔵書構築) 読書活動を支える選書 豊かな読書へのいざない
⇒大人の読ませたい本と子どもの読みたくなる本の差・本にも旬がある。
学習活動を支える選書 調べるって面白い
⇒学習に役立つために/教科単元に即した選書/発展へのいざない
〔所蔵しない資料・情報や個々の潜在的な興味・関心への対応〕

4 step 教育課程の展開に寄与 (教育活動への積極的参加)

: 図書館をつかおう 必要な情報を取り出すために/図書館利用指導 (情報リテラシー教育の事始め)
分類・排架のしくみと参考図書 (図鑑・年鑑・百科事典等)・目録の使い方
さらなる学校間ネットワークと公立図書館との連携 授業に必要な豊富な資料を
「教育活動の展開に寄与」: どんどん授業でつかってほしい (まずは図書館担当教員から)
⇒ 読書活動年間計画、調べ学習年間計画、図書館活用と指導の年間計画

5 step 情報活用能力の育成 (情報リテラシーの育成 著作権 課題探求のための力と技)

: 図書館の情報化 蔵書のデータベース化+様々なメディア情報/校内LAN→ネットワーク情報源
⇒メディアセンター 新しい学校図書館像: 学校図書館+視聴覚室+コンピューター室
ICT環境の整備と充実⇒情報への道案内: リンク集やパスファインダー⇒HPの充実

⇒⇒調べ学習 課題解決学習 探究学習

(課題設定・検索・操作・読解・思考・判断・表現・コミュニケーション・評価) cf. The Big6 skills model
(テーマを決める、情報をさがす、読む、考える、選ぶ、まとめる、つくる、発表する、話し合う、ふりかえる)

【教師も子どもも使いやすい校内の位置→「学校の中心」】

6 step すべての子どもたちにサービスを: 共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築に向けて 特別なニーズを抱える子どもたちへの支援⇒関係教職員との連携・協働 (カウンセリングマインドを持つ)

教室に入れない子ども 保健室登校⇒学校図書館登校⇒復帰を望みつつ
多言語・多文化/特別支援 バリアフリー ユニバーサルデザイン 個人に必要な「合理的配慮」
日本語以外の資料 日本語学習資料/布絵本・マルチメディアデジター・LLブック等

7 step 連携

: 1. 学校間・公立図書館との協力・連携 (資料協力、合同研修会、目録・手引き・郷土資料などの協働作成)
2. ボランティア・地域のパワー (公民館・学童・文庫) 学校全体・地域への存在のアピール
書架・ラベル整備/季節の展示・掲示 (専門職を助ける)/お話し・読み聞かせ
公立図書館への引率支援/P.T.A.学級での図書館連続講座 (研修を兼ねて)
3. 類縁機関との連携 (文書館・博物館・美術館・郷土資料館など)
4. その他の連携 (病院 老人ホーム 学童 研究会 学会 協会 ユネスコ NPO 等の諸団体)

8 step 図書館は学びのコミュニティ

: 図書館は出会いの広場 本 (情報) や著者と出会う・学年と教科・学校を超えた出会い [受容と発信]
地域活動との協働—広場は地域の人々をつなぐ

「図書館は成長する有機体である」ランガナータン

Step といっても、すべては同時展開であり、学校により重点の違いがあるだろう